

○計画期間：平成25年4月から平成30年3月まで(5年間)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成28年度終了時点(平成29年3月31日時点)の中心市街地の概況

当市は、第五次大野市総合計画（計画期間；平成23年度～32年度）において大野市の将来像を「ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち」とし、四つの柱「人が元気」「産業が元気」「自然が元気」「行財政改革」と基本施策を定めている。その基本施策の一つに中心市街地の活性化を位置づけており、400年以上前から残る城下町のまち並みは当市の宝であり顔であることから、多様な人々が集う、活気に満ちた魅力あるまちに再生することを目指している。

平成25年3月に認定を受けた第2期大野市中心市街地活性化基本計画は、平成28年度で4年目を迎え、数値目標達成に向けて官民が連携しながら各種事業を押し進めた。

特に中心市街地活性化のけん引役となる株式会社結のまち越前おおのでは、市内事業者と連携し、平成26年6月からスタートさせた「越前おおのまち講座」が定着し、平成28年度の実施講座数は339講座となった。さらに、このまち講座を発展させ市外に向けて市内の店舗で体験できる観光メニューを紹介する冊子及び専用ホームページを作成し、市外へ広く発信したことで企画した12講座に対し、138人の参加を得られ、増加傾向にある観光客を既存店舗にて受け入れるきっかけとなるなど、市内事業者と連携した取り組みを更に加速させている。

また、まちなか観光を推進するため、天空の城として注目を集める越前大野城など文化施設への入館と、まちなか循環バスの乗車がセットとなったパスポートを平成27年度より販売し、平成28年度は計4,539枚を販売・配布した。

これら民間による滞在時間拡大のための取り組みに加え、行政としてもまちなか遠足や団体ツアー客の誘致等に取り組むほか、古民家を改修し、市民所有の絵画等を展示するギャラリーの整備に着手した。これら官民の取り組みの連携により増加傾向にある観光客に加え市民の誘客を図るとともに、中心市街地内での回遊性を高めるための取り組みを引き続き行っていく。

2. 平成28年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成28年度は、第2期大野市中心市街地活性化基本計画掲載事業の「越前おおのおもてなし事業」や商店街が連携した「おもてなし商業エリア創出事業」などの実施により、中心市街地への観光客及び市民の入込数が増加しており、主要4施設の入込数及びまちなか歩行者の通行量は前年を上回っている。

特に、城下町南広場の供用開始や「天空の城」ブームの効果も持続しており、主要関連4施設への入込数は前年と比べ6%増加しており、第1期大野市中心市街地活性化基本計画で整備された「越前おおの結ステーション」及び「城下町東広場」を起点とする中心市街地へ回遊する仕組みに加え「城下町南広場」が浸透し、中心市街地への流入経路も確立されてきたといえる。

まちなか循環バス・乗り合いタクシー利用者は前年比△6.5%と利用者が減少したが、高齢

者等の交通弱者が中心市街地へ足を運ぶための手段として重要な役割を担っていることから、今後まちなか循環バス・乗り合いタクシーが利用者にとって、より利用しやすいものとなるよう改善策が必要と思われる。

また、民間の動きとして、株式会社結のまち越前おおのでは、個店の魅力を伝える、まち講座“匠の勧め@結の故郷”が、平成26年から開催されているが、平成28年度は、年間339講座開催され、その講座を1,025名の方が受講するなど講座への浸透が図られている。

さらに、越前おおの中心市街地活性化協議会が中心となり、次代を担う若者や若手後継者によるまちづくりを進めるため立ち上げた「越前おおの美濃街道プロジェクト」では、「歴史の道再生事業」や半夏生サバと魚屋座敷文化を組み合わせた「魚屋さんでおおの膳」事業などにも継続して取り組んでいる。平成28年度は「蔵めぐり体験ツアー開発事業」を実施し、市内の味噌・醤油蔵の魅力を観光客に発信していく取組みを展開した動きも出ている。

こういった動きを当協議会としても支援していくこととしており、平成28年度の成果を踏まえ、ブラッシュアップを図りながら着実に事業が推進されているものとする。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
まちなか観光による交流人口の増加	関連施設の年間入込み客数(中心市街地主要4施設)	136,093人 (平成23年)	144,000人 (平成29年)	212,617人 (平成28年)	①	①
商店街を中心としたまちなか生活の充実	1日当たりの歩行者通行量(休日)春・秋の合計値	4,907人 (平成23年度)	6,000人 (平成29年度)	8,211人 (平成28年度)	①	①
豊かな暮らしを支える公共交通の実現	まちなか循環バス、乗合タクシー利用者数(年間)	28,685人 (平成23年度)	30,500人 (平成29年度)	23,726人 (平成28年度)	②	②

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

目標指標のうち「まちなか循環バス、乗合タクシー利用者数(年間)」は基準値を下回った。本格運行前の平成23年度(基準値)と比較して一便当たりの乗客数は増加傾向となっているが、まちなか循環バスは目標設定時に行っていた試験運行の結果を踏まえ、利用の少ない便を廃止するなど効率的な運行方法にシフトし、目標設定時と比べ便数が減っていることから目標達成は容易ではない。そこで、平成29年度は昨年度実施した中心市街地でのイベント開催時におけるまちなか循環バスの増便運行及び高齢者向けの各種説明会、区長会、高校新入生向け説明会での事業説明を平成28年度に引き続き実施することに加え、郊外と中心市街地を結ぶ乗合タクシーの乗降場所を増やす予定であり、利用者の利便性を高めることで市民のまちなか循環バス及び乗合タクシーの利用を促すとともに、その利便性について認識してもらうことで利用者数の増加につなげていく。また、株式会社結のまち越前おおのが発行する「文化施設入館・まちなか循環バス利用パスポート」の利用拡大など、公共交通の利用促進に向けた対策を講じることで、引き続き目標達成に向けて取り組みを推進していく。

「関連施設の年間入込み客数(中心市街地主要4施設)」及び「1日当たりの歩行者通行量(休日)」は、基準値を超えており、引き続き主要事業への取り組みを進めることで目標達成は可能であると見込んでいる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

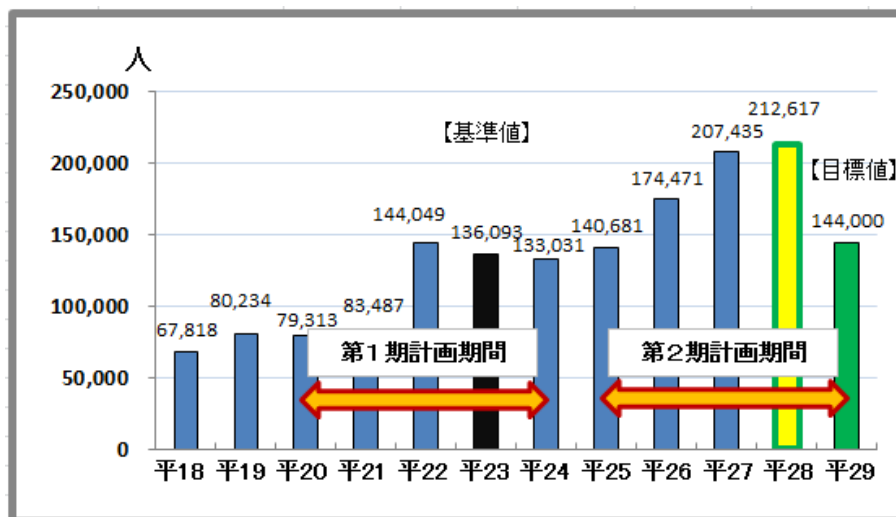
前回のフォローアップと見通しは変わっていない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

1) 「まちなか観光による交流人口の増加」(関連施設の年間入込み客数(中心市街地主要4施設))

※目標設定の考え方基本計画 P65～P67 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H23	136,093 人 (基準年値)
H25	140,681 人
H26	174,471 人
H27	207,435 人
H28	212,617 人
H29	144,000 人 (目標値)

※調査方法：中心市街地主要4施設の入込み客数

※調査月：通年(1月～12月)

※調査主体：大野市

※調査対象：平成大野屋、越前大野城、民俗資料館、武家屋敷旧内山家

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①結の故郷おもてなし事業(大野市)

事業完了時期	【実施中】平成29年度
事業概要	まちなかと郊外の観光資源を結びつける観光ルートの開発、宿泊を伴う観光客を誘致する事業である。
事業効果及び進捗状況	隣接市にある福井県立恐竜博物館に株式会社結のまち越前おおのが発行する「食べ歩き見て歩きマップ」を設置し、誘客を促進したほか、まちなか遠足やまちなか散策誘致を進めた。

②歴史的建造物保存整備事業(大野市)

事業完了時期	【完了】平成26年度
事業概要	大野藩家老の「田村又左衛門家屋敷」の復元解体に係る調査及び保存整備、庭園・通路などを整備する事業である。
事業効果及び進捗状況	平成27年4月25日、武家屋敷旧田村家としてオープン。大野藩上級武家屋敷の様相を留めている貴重な史跡として、まちなか散策のルートに組み込み、回遊性を高めることができた。

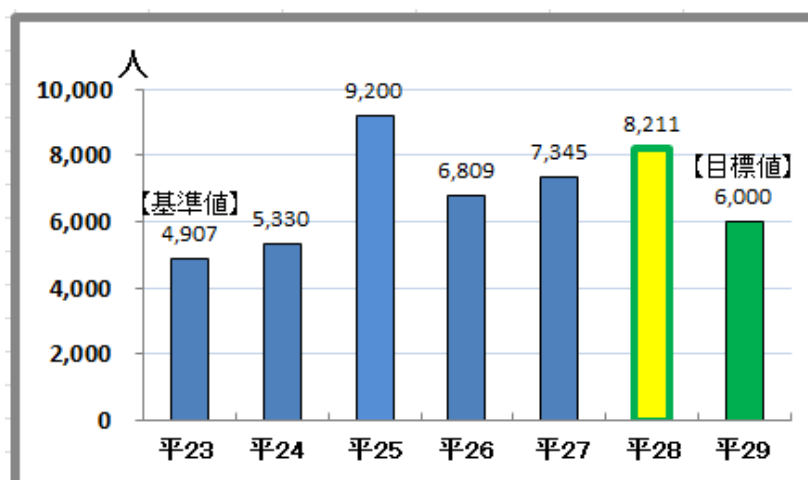
●目標達成の見通し及び今後の対策

平成28年度の「関連施設の年間入込み客数（中心市街地主要4施設）」は、武家屋敷旧田村家の開館に合わせた散策ルートの設定、施設入館パスポートの発行など有機的に回遊する仕組みを構築したことで前年を上回って推移した。天空の城として注目された「越前大野城」の入館者数が昨年比で1.09倍となり「天空の城」効果が引き続き現れているほか、「結の故郷おもてなし事業」の実施により、まちなか遠足56件5,025人、まちなか散策誘致252件10,070人が訪れるなど効果が出ており、目標達成は可能であると見込んでいる。

2) 「商店街を中心としたまちなか生活の充実」（1日当たりの歩行者通行量(休日)春・秋の合計値)

※目標設定の考え方基本計画 P68～P70 参照

●調査結果の推移



年度	(単位)
H23	4,907人 (基準年値)
H25	9,200人
H26	6,809人
H27	7,345人
H28	8,211人
H29	6,000人 (目標値)

※調査方法：中心市街地7地点、12時間連続調査

※調査月：春（5月）及び秋（10月）

※調査主体：越前おおの中心市街地活性化協議会

※調査対象：平成大野屋前、ねんりんの里前、七間本陣付近、観光協会付近、旧Fマート前、越前大野駅前、野村醤油店前

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①中心市街地商店街賑わい集客施設整備事業（仮称）（株式会社結のまち越前おおの）

事業完了時期	【未】平成29年度
事業概要	遊休不動産を活用したコミュニティカフェ等の整備を行う事業である。
事業効果及び進捗状況	商店街で不足している業種を補うことにより着実に増加している観光客の滞在時間の増加が見込まれ、地域経済の活性化につなげることができる。当該事業予定地周辺で出店が相次ぎ、今年度も複数の出店計画があるなど当初より周辺環境が変化していることから、遊休不動産の利活用の方策を改めて検討する。

②歴史の道再生事業及び新にぎわい商業ゾーン形成事業（大野市）

事業完了時期	【完了】平成26年度
--------	------------

事業概要	本町、七間、五番、横町、春日の各通りに提灯を設置して街区の景観形成を図るとともに、高校生によるチャレンジショップ設置を行うなど商店街を中心にまちなか全体に活気と賑わいを創出する事業である。
事業効果及び進捗状況	平成25年度、26年度の2か年で60基の提灯が設置された。平成28年度は美濃街道沿いの醤油蔵に着目した回遊性を高める事業を実施するなどストーリー性ある取り組みが進んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

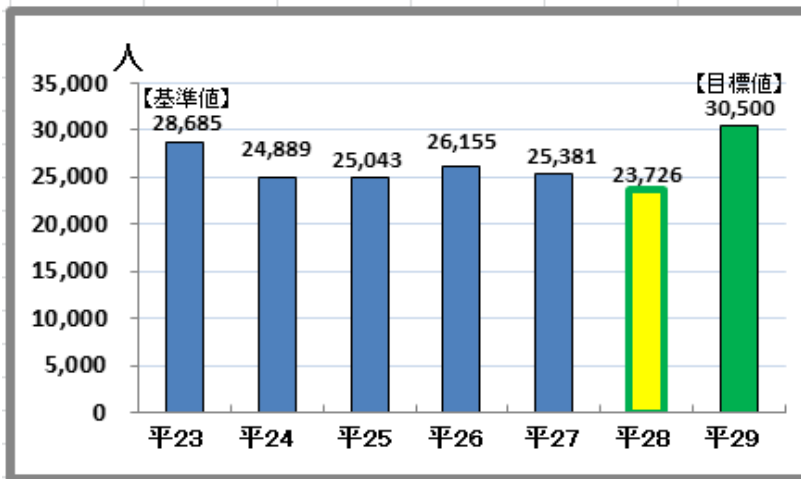
平成28年度の「1日当たりの歩行者通行量(休日) 春・秋の合計値」は目標数値を上回った。目標達成に寄与するソフト事業を今後も効果的に実施することで、目標達成は可能であると見込んでいる。なお、「中心市街地商店街賑わい集客施設整備事業」(仮称)は中心市街地における不足業種の状況が変化してきていることから、遊休不動産の利活用方策を再度検討するとしていたが、施設整備に向けた検討は進んでいない。

一方で、五番通りにおいて遺贈を受けた古民家を改修してギャラリー及び交流施設を整備する事業に着手しており、完成の暁には歩行者通行量の多い七間通りからの誘客が期待でき、中心市街地のさらなる回遊性の向上が見込まれ、目標達成は可能であると見込んでいる。

3) 「豊かな暮らしを支える公共交通の実現」(まちなか循環バス、乗合タクシー利用者数(年間))

※目標設定の考え方基本計画 P70~P72 参照

●調査結果の推移



年度	(単位)
H23	28,685人 (基準年値)
H25	25,043人
H26	26,155人
H27	25,381人
H28	23,726人
H29	30,500人 (目標値)

※調査方法: まちなか循環バス、乗合タクシーの乗車人数

※調査月: 通年(4月~3月)

※調査主体: 大野市・運行事業者

※調査対象: 利用者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①市民ホール整備事業(大野市)

事業完了時期	【完了】平成26年度
事業概要	市役所新庁舎の新築に際し、庁舎1階に市民ホールを設けてギャラリー一等として活用する事業である。
事業効果及び進捗状況	市民ホールを市民展示やイベント会場として利用するほか情報コーナーを設けることで、公共交通を活用した地域住民の交流、観光客を含む来庁者の回遊性を高めることができる。平成28年度は27件のイベント・展示が開催され、多くの市民に活用されている。

②バス停留所整備及び（仮称）城下町南広場整備事業（大野市）

事業完了時期	【一部完了】平成29年度
事業概要	六間通り（国道476号）の歩道拡幅に伴いバス停留所を設置するとともに、市役所現庁舎跡地に防災機能を備えた多目的広場を整備する事業である。
事業効果及び進捗状況	六間通りの歩道拡幅を実施するとともに、平成28年度は市役所庁舎の隣接地に整備した「城下町南広場」において各種イベントが開催された。

③高齢者ゆうゆう購買促進事業（大野商工会議所、商店街振興組合連合会、大野市）

事業完了時期	【完了】平成27年度
事業概要	協賛店にて買物またはまちなか循環バス等を利用した際に特典を付与することで消費の拡大を図る事業である。
事業効果及び進捗状況	まちなかにおける高齢者の購買促進を図ることで地域経済の活性化を図ることができる。平成27年度には特典を付与する対象を市外からの来街者に拡大した上で実施。買物での特典のほか、まちなか循環バス等の利用促進を図るため1回乗るごとに特典を付与した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

まちなか循環バスは本格運行を開始するにあたり、便数の再編・効率化を行った。本格運行を開始した平成24年度以降、1便当たりの乗客数は試験運行時と比較して増加しており、市民の足として定着しつつあるが、目標の達成のためには市民の利用を増加させることに加え、着実に増加している観光客の利用を増加させる必要がある。

平成29年度は高齢者に分かりやすい時刻表の全戸配布や、高齢者向けの各種説明会、区長会、高校新入生向け説明会での事業説明のほか、まちなか循環バスの土・日・祝日に運休していた便を中心市街地でのイベント開催時における増便運行を平成28年度に引き続き実施することに加え、郊外と中心市街地を結ぶ乗合タクシーの乗降場所を増やすことで、利便性を向上させ利用につなげていく。また、株式会社結のまち越前おおのが各商店と連携して実施するまち講座「越前おおのまち講座」事業や、大野商工会議所や各商店との連携によるまちなかの活性化を図るサービスの提供により中心市街地への来街の動機付けを行うことでまちなか循環バスや乗り合いタクシーの市民利用を増やすほか、株式会社結のまち越前おおのによる「文化施設入館・まちなか循環バス利用パスポート」の発行を支援することにより観光客の利用促進を図ることで、目標達成に向けた取り組みを進めていく。